

宮川の風 第66号

平成30年11月16日（金）発行

宮川小学校校長室からのたより

先日のこと。谷山ふるさと祭りを見学に行くと、妻と二人でJR指宿枕崎線の3両編成に乗りました。会場に着くと、沿道に並んだ屋台から漂ってくる美味しそうなおいを、戌年の私は‘クンクン’とかぎながら吹奏楽部の演奏パレードを聴いて、満足感に浸っていました。

そして、帰りのJRの中でのことでした。それほど混雑はしていなかったのですが、既に座席は埋まっていました。つり革につかまりながら久しぶりのJR指宿枕崎線の車窓を眺めていました。何気なく自分が立っている前の座席に座っている人を見ると、小学生と中学生の姉妹らしき二人でした。二人で中央駅付近か、もしくは天文館辺りで買い物でもするのかな、なんて思いながらまた視線は外の景色に向けました。その時です。頭の中に妙な不安がよぎってきました。その不安とは・・・。

「もしも、この姉妹が予想以上の親切者で、しかも強い責任感を持ち、さらに軽快な行動力を身に付けており、『どうぞ、座ってください』なんて戌年の自分に言ってきたらどうしよう・・・。まさか、そこまでのことは起きないだろう。着ている服も割と若作りしているし、菜の花マラソンに向けて足は鍛えているし、まさかそんなことは・・・」というものでした。

不安は現実にはならず、中央駅まで無事に立ったままで過ごすことができました。ホッとしながらも、「でもいつかそんな日が来るんだ。いつなんだろう？正直、とまどうだろうなあ～」なんて考えてしまいました。

裏面の話をお読みください。

私も「ゆずられる」よりも「ゆずる」方でいけるように、これからも足腰を鍛えて、若作りして、シャンとして立っていたいと思います。

次の3連休は、高校と中学校の同窓会が続く‘還暦記念日’になります。

朝、学校周辺を歩いていると、お菓子の袋が捨ててあることがあります。明らかに子どもが買うであろうと思われる袋もよく落ちています。もしかして宮川の子もたちが‘ポイ捨て’をしているのであれば、今のうちにゴミは持ち帰る習慣を身に付けさせなければなりません。日本人が世界の人たちから絶賛される‘ゴミの持ち帰り’を受け継ぐ子どもたちに育てなければなりません。

PTA役員、学級役員、学校評議員の方々に御協力いただいた学校評価の結果がまとまりました。12の項目について4段階の評価をしていただきました。全体的にはよい評価結果だったのですが、最もよい評価のAの数値が50%を下回った項目が2つありました。「あいさつ」と「交通ルール」の項目です。2項目とも2番目によりBと合計すると90%前後の数値にはなるのですが、Aが高くなるように指導を継続していきます。

ある日のできごとから



12月の持久走大会に向けた練習が続いています。体育の時間には、学校支援ボランティアの方々の協力をいただきながら、実際のコースを走っています。朝の始業前の時間には、自主的な練習に励む子どもたちがたくさんいます。走るラインを3つに分けて、一番内側を低学年、通常のラインを中学年、そして大回りをするコースが高学年となっています。

以前は、標準服のまま走る子どもたちもいましたが、安全性や衛生面から今は全員体育服に着替えて走るようにしています。練習の成果もありタイムがどんどん縮んでいる子どもたちが大勢いるようです。

友達との競争でありながら、自分との戦いである持久走。最後まで自分の全力を出し切ってほしいと思います。

（文責：鹿児島市立宮川小学校長 松永幸二）